

皮膚科のトリビア

224

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第86回日本皮膚科学会東京支部学術大会から 令和4年11月20日

Brunsting-Perry型類天疱瘡の特徴

20歳代腎移植後の女性。顔面に限局して水疱を形成。表皮下水疱で、基底膜部にC3の沈着あり。抗BP180抗体陰性、抗BP230抗体陽性で、Brunsting-Perry型類天疱瘡(Brunsting-Perry pemphigoid: BPP)と診断。BPPは瘢痕性類天疱瘡の亜型で、頭部、顔面、頸部などに限局する紅斑、水疱が生じ、びらんや潰瘍が瘢痕となり、稗粒腫を伴うことが特徴。63例の集計では平均年齢62.9歳、男女比は6:4で男性に多く、口腔粘膜病変を22.2%に伴う。標的抗原には多様性があり、抗BP180抗体(12/15, 80.0%)、抗BP230抗体(5/15, 33.3%)、抗ラミニン332抗体(3/15, 20.0%)であった。自験例のような抗BP230抗体単独陽性例はまれ。

一言コメント

「抗BP230抗体単独陽性例はときどき経験していて、痒疹結節を伴う例が多い印象がある。集計して特徴が明らかになればよいが、どこかの施設で検討してもらえないだろうか。」

●第56回神奈川皮膚科免疫アレルギー懇話会から 令和4年11月24日

疥癬とM2マクロファージ

疥癬の病変部は、表皮、真皮ともにIL-31の発現が

増強している。それは真皮に浸潤しているM2マクロファージが主として産生していた。また真皮にはTh2細胞が多数浸潤していて、Th2関連蛋白のTSLPやペリオスチンの発現も増強していた。ヒゼンダニの寄生によりTSLPとペリオスチンが過発現し、M2マクロファージが形成され、IL-31を産生し、痒みが生じることが示唆された。

一言コメント

「疥癬の痒みにもマクロファージにもネモリズマブが有効なのだろう。マクロファージにもtype1とtype2がある。M1は病原体、LPS、GM-CSF、TNF- α 、IFN- γ で活性化される。M2は、寄生虫、真菌、IL-4、IL-13、TGF- β で活性化される。なんとなくすっきりした。」

●第56回神奈川皮膚科免疫アレルギー懇話会から 令和4年11月24日

ヒトTIF1- γ 蛋白を免疫して筋炎を発症させるマウスモデル

ヒトTIF1- γ 全長蛋白をアジュバントとともにマウスに繰り返し皮下投与を行った結果、大腿筋に筋炎が発症した。病理組織学的にも、筋線維周囲にCD8陽性T細胞を中心とした炎症細胞が浸潤し、皮膚筋炎に典型的な像を呈していた。筋炎が誘導されたマウスからCD8陽性T細胞を採取して、未発症のマウスに移入すると筋炎が誘発された。またI型インターフェロン受容体欠損マウスでは筋炎の軽化化があり、JAK阻害薬を投与すると、筋炎の発症が抑制された。

一言コメント

「抗TIF1- γ 抗体陽性の成人皮膚筋炎は、悪性腫瘍の合併が多い。腫瘍にTIF1- γ 遺伝子の変異が生じると自己免疫応答を誘導する可能性が示唆されているとのこと。悪性腫瘍と皮膚筋炎のつながりがみえたような気がする。ちなみにJAK阻害薬は皮膚筋炎にも有効らしい。いずれ治療で使われるようになるかもしれない。」

●某製薬会社共催Web講演会から

令和4年11月30日

膠原病に伴う肺高血圧症

肺高血圧症を合併する頻度は、全身性エリテマトーデス(SLE)で5%、皮膚筋炎/多発性筋炎(PM/DM)で5%、混合性結合組織病(MCTD)で20%、全身性強皮症(SSc)で10~15%。左心病変が原因の肺動脈性肺高血圧症(PAH)の原因はSLEでは心筋炎ないし心膜炎、PM/DMとMCTDでは心筋炎、SScでは心筋線維症、肺病変に伴うPAHの合併はSLEではまれ、PM/DMでは50~60%、MCTDでは30%、SScでは70%、SLEでは合併する抗リン脂質抗体症候群による血栓が原因の場合もある。病態、原因によって行うべき治療が異なる。

一言コメント

「PAHを疑う症状としては、労作時の息切れ、腹部膨満感、失神のほか、倦怠感、易疲労性、動悸、血痰などがある。治療薬はプロスタサイクリン系のほか、最近ではエンドセリン系(エンドセリン受容体拮抗薬)、一酸化窒素系(PDE5阻害薬、可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬)が用いられるようになったとのこと。知らないうちに進歩しているようだ。」

●第30回横浜臨床医学会学術集談会から

令和4年12月3日

COVID-19罹患後の脱毛

院内職員での調査。COVID-19罹患後の36名中、16名にヘアロスがあった。女性は13/26名、男性は3/10名。感染後2カ月以内に発症した症

例が81.3%。7名は罹患後7カ月後まで症状が継続している。海外のシステマティックレビューでは、COVID-19感染を有した脱毛症患者1,826例(平均年齢54.5歳、男性54.3%)が集積され、タイプは男性型脱毛症(全体の30.7%、男女比9:1)、休止期脱毛症(19.8%、男女比2:8)、円形脱毛症(7.8%、男女比4:6)、その他分類不能(41.7%)であった。男性型脱毛症を呈したCOVID-19患者は全員が、男性型脱毛症既往であった。休止期脱毛症を呈したCOVID-19患者は、93.6%が非既往で、COVID-19罹患によって新たにひきおこされたものであった。円形脱毛症を呈したCOVID-19患者はほとんどが円形脱毛症既往で(95.1%)、円形脱毛症は概して円形脱毛症既往の患者で発生していた。

一言コメント

「2割程度にみられるという認識でよいだろう。可逆性であれば問題はなさそうだが、休止期脱毛症に人參養榮湯という漢方薬が有効だったという報告があるようだ。」

●神奈川県皮膚科医会第167回例会から

令和4年12月4日

妊婦に禁忌の外用薬のまとめ

アダパレン(ディフェリン[®]ゲル)、アダパレン/過酸化ベンゾイル(デュアック[®]ゲル)、アルプロスタジール(プロスタンディン[®]軟膏):子宮収縮作用がある。メトロニダゾール(ロゼックス[®]ゲル、妊娠3カ月以内):経口投与で胎児に移行することが知られている。ケトプロフェン(モーラス[®]テープなど、妊娠後期)およびエスフルルビプロフェン(ロコア[®]テープ、妊娠後期):胎児動脈管収縮がおこることがある。タクロリムス(プロトピック[®]軟膏)は妊娠中の禁忌が外れた。

一言コメント

「タクロリムス軟膏の添付文書を久々にみた。授乳中はまだ禁忌かと思ったが、最新の添付文書では外れている。PUVA療法等の紫外線療法を実施中の患者が禁忌に含まれていたことを思い出した。併用している患者が少しいるような気がする。」